

VI 研究・研修の構想

1 目的

- ・教職員の専門性の向上
- ・教職員が共に学び、支え合うチームワークの充実

2 基本方針

- (1) 専門研修 教職員の専門性を高めるための各種研修（次ページの計画による）
- (2) 情報収集 授業作りや支援に有益な情報を収集したり、学校で実践した指導に有効な内容をHPで公開したりし、広く意見を求める。
- (3) 実践研修 下記の計画の通り

3 研究主題

「できる力の活用～家庭・地域とのつながりの中で」

4 主題設定の理由

当校は知的障害の児童生徒を対象とした小中高等部の特別支援学校であり、インクルーシブ社会に対応する教育を目指して教育活動に取り組んでいる。昨年度までの3年間、「社会と関わり合いながら生きていく力の育成」というテーマで研究を行ってきた。初年度は、「社会と関わるための力」を付けるために、共通文化の獲得、音楽や芸術等感性と表現力の育成、社会体験の広がりを目指して教育活動を行い、社会と関わるための素地を育てた。2年次は、「社会の中で1人でできる力を育てる」ことを目標に、子供達の学びやすさを追求してカテゴリー分けした「新教育課程」を導入し、学習内容を「家庭生活」「社会生活」「職業」「一般教養」に整理した。その中で優先順位の高い学習内容を選択し、目的行動を成すために必要な知識・技能・工程をまとめた指導マニュアルとそれを評価するための検定票の開発に取り組んできた。

この3年間の成果としては、指導マニュアルの作成により指導内容を明確化させ、工程分析や支援方法の工夫を見識化させたことで、教師が見通しをもって指導できることにつながった。もう1つは、評価基準が明確になり、つまづきを分析し授業改善につなげ目的が達成されやすくなった。特に技能系のスキルを身に付けることに大変有効であることが明確になった。活動の始めから終わりまで、子供達が1人で完結できる力が、様々な分野領域で伸びている。

一方課題は、学習題材の選定、検定票の指導内容の精選やカッティングポイント設定の難しさ、身に付けた「できる力」を活用する場面の不足であった。

29年度は、「1人でできる力」を発揮しながら、家庭内や社会の様々な人と関わる場面を大切に学習内容について考えていく。今年は学部グループで実践を行う。シラバス(年間指導計画)内のどの時期に実践するか、場所・活動・活用の場面・評価等について、学部で検討を行う。家庭や地域と関わる活動は「学校で学んだ力の活用場面」と位置付け、活用場面をゴールに校内での学習を考えていく。家庭・地域と関わる活動の中では、可能な子供には自分で判断したり工夫したりする場面も設定し、「できる力」の応用（できる力をしなやかに使う力）も伸ばしていく。このような学びの流れによって、学習のゴールが見通せることで子供達の意欲が高まり、他者と関わり認められる経験が自信となり、社会参加の幅を広げていくことにつながると期待している。

5 研究内容及び方法

(1) 研究内容

家庭・地域と関わる学習単元の開発

(2) 研究方法

授業研究を含めた実践研究

- ・学部1実践
- ・12月の魚沼学会にて、テーマグループごとに実践発表を行う。開発した指導マニュアルや検定票はHPで公開する。